

上宮寺通信

第四十四号

怨みをすててこそ

2月24日、ロシアが隣国ウクライナに軍事侵攻を行うという世界を震撼させる出来事が起こりました。

当初は軍事力に勝るロシアが短期間で制圧してしまうのではないかと予想されていたのですが、ウクライナも国土防衛のため必死に防戦。多くの一般市民が命を落とし、また難民となっています。

一体、この戦争の結末はどうなるのか。ロシアが勝とうが、ウクライナの国土は荒れ、お互いの国民感情は最悪でしょう。世界の経済も大きな打撃を受けると予想されています。本当に怖いこ

とが起こりました。

両国がこれ以上、戦いの泥沼にはまり込まないように、また世界に戦火が広がらないように、世界の指導者たちの賢明な判断をお願いしたいと思えます。

お釈迦様は、「怨みに報いるに怨みを以てしたならば、ついに怨みの息(や)むことがない。怨みをすててこそ息む」と言われました。

怨みというのは無限に連鎖するのです。どうかこの言葉に耳を傾けていただきたい。

また、親鸞聖人の師である法然上人の仏道の出発点は「怨みの連鎖を断ち切る」ということでした。

法然上人は武家のご出身でし

た。9歳のとき、父・漆間時国(うるまのときくに)が敵対勢力によつて、法然上人の目の前で刺されたのです。息も絶え絶えに法然上人に遺した言葉は「敵を恨んではいけない」。

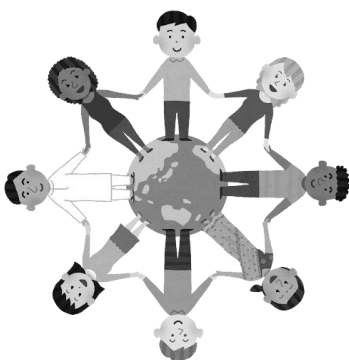
武家に生まれた法然上人は、本来ならば仇討ちを目指すのが使命です。当然、父も「俺の無念を晴らしてくれ」というのが普通でしょう。しかし、父は「敵を恨んではいけない」と。

それは憎しみが憎しみを生み、怨みが怨みを生むことを父はわかっていたので。だから、法然上人に同じ道を歩ませたくない。何とかこの怨みの連鎖から抜け出てほしいと最後の最後に力をふりしぼって法然上人にお伝えくださったのです。

その言葉を聞き、法然上人は出家をされ、浄土宗をひらき念仏の教えを伝えられました。その流れが私たちのお念仏となっているのです。

念仏には「怨みを怨みで返してはいけない」という法然上人の父の願いが、法然上人を通し、親鸞聖人を通し、いま私たちのところへ届いているわけです。

一日も早くウクライナに平穏が戻り、人々が穏やかな生活ができることを願っています。



「あの人には後光がさしている」。優しく気高く、思わず拝みたくなるような人に出会った時にこんな言葉を発することがあるでしょう。後光とは、仏様の頭のところから出ている光を指します。

真宗大谷派のご本尊である阿弥陀如来は木像でも絵像でも48本の光が放射状に出ています。これは『仏説無量寿經』で説かれるところの48願をあらわします。また、必ず立像となっています。すべての人に光が行き届き、必ず救うぞと立ち上がっておられるお姿でもあります。



◆行事案内

長野善光寺・小布施・

北向観音巡り

七年に一度のご盛儀・善光寺御開帳に参拝いたします。

5月18日(水)～19日(木)

参加費 38,000円

宿泊 渋温泉 渋ホテル

募集人員 20名

※定員になり次第しめきり

※全行程食事つき。中型サロンバスを使用します。



◆話題あれこれ

○3月8日の「春のお彼岸・永代経法要」は、春到来を思わせる暖かい日となり、多くの方にご参詣をいただきありがとうございます。まだまだ感染収束が見通せませんが、お寺の行事もできることからやっていきますので、これからもよろしくお願いたします。

○「まん延防止等重点措置」が解除され、春の陽気にも誘われどこかに出かけたくなります。ただ、第七波とならないよう感染対策だけはしっかりとしていきたいものです。

○季節の変わりめです。体調には十分お気をつけください。

【雑感】

先日、高校二年生の娘が所属する吹奏楽部の定期演奏会がありました。新型コロナの影響で入学当初から普段の練習もままならず、昨年の定期演奏会は中止。観客を入れての演奏会は、吹奏楽部としては今回が初めてでした。司会進行や舞台演出、小道具などは生徒たちの手作り。ちよつとドタバタしたところもありましたが、それも愛嬌。公演時間の一時間半はあっという間に過ぎてしまいました。もちろん演奏がすばらしかったのはいうまでもありません。

(住職記)

【発行】

真宗大谷派

上宮寺

昭和区白金一丁目十九番十五号

☎052-871-0547